

# スマート牡蠣養殖による持続可能な水産業を振興！ 定着と横展開を推進し愛媛県下における牡蠣養殖の一大産業化を目指す！！

採択事業者名 株式会社リブル  
 コンソーシアム構成員 愛南漁協協同組合 | 上甲商会 | アグリファーム稲田 | 平田水産

勉強会の実施概要			
コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	4	実施回数の累計	5
参加人数のユニーク累計	15	参加人数のユニーク累計	22

代表的な実施事例	
狙いとゴール	本事業の進捗状況や成果を共有し、スマート牡蠣養殖の目的や効果の共有を図り、横展開による、水産業のデジタル化の加速を目指す。
実施の成果	内部勉強会では実装フィールドの他牡蠣養殖事業者向けに現場視察を実施。外部勉強会では愛媛県下の沿岸自治体及び漁協や漁業者にご参加いただき、R7年度の予算化に向けて、継続協議中。
実施アジェンダ協議内容	会社紹介・事業概要説明・取り組み紹介・成果と実績報告・意見交換を実施。
参加者の一例	内部勉強会：実装先3社+漁協・愛南町の牡蠣部会メンバー 外部勉強会：愛南町行政(町長   町会議員   商業・水産担当含む) 松前町水産担当・八幡浜市水産担当・今治市水産担当及び漁協&漁業者
次年度以降の想定アクション	本年度実装フィールドでの実装領域及び実装先の拡大 新規フィールドへの展開



データ活用・協議の具体例	
重要指標例	海域特性や環境(海洋・天候)条件に適した管理型養殖の実施により、 ① 歩留向上 ② 単価向上 ③ 管理労力削減

	実装前	実装後
データ取得	①原材料の納入量や在庫量が把握不可 ②むき身での販売単価の確認 ③個人ノートもしくは記憶頼り 精度が低く手戻り等多発	①測量可能な人工種苗及びアプリで常時在庫管理 ②殻付きでの販売単価の確認 ③アプリ上で漁場&作業を記録し常時参照
データ活用	①積年のデータ等も無く評価不可 ②各帳簿を確認 ③手書きノートや口頭での作業指示や在庫管理	①環境データと歩留や生育生残データを分析し、 海域特性や環境条件にあった養殖を実施 ②各帳簿を確認 ③アプリで漁業図や在庫状況を各人の端末で確認
実行	①歩留や生育生残状況の正確な判断ができず、海域特性や環境条件との分析が不可 ②販売形態、販売価格が情性で決定 ③作業指示や在庫状況を現地で確認 計画立案が難航	①環境データと生育生残データの分析から、翌年以降の養殖計画や適宜の作業判断に反映 ②身質や成品ピークの調整により、高単価な市場及び販売形態を選択 ③リモートも含めて作業指示や在庫状況を確認し販売計画に反映
業務反映	①定量的なデータが無く、根拠ある改善や計画立案が不可 ②販売形態や販売価格決定の主導権が無く、高付加価値化や高単価が未検討 ③現地合わせての作業指示や在庫確認のため、計画的な漁場活用や営業活用が不可	①データに裏付けられた養殖計画や作業判断を実施、結果を評価、養殖作業を改善するというサイクルが実現 ②市場に求められている販売形態をとることができるため、収益性の向上に向けた協議が可能 ③計画的な漁場活用や販売管理可能となり振返りや機会損失を未然に防ぐことが可能

代表的な実施事例		
#テキスト入力		
項目	これまで	データ活用・協議を踏まえて
作業内容&タイミング	経験と勘から作業内容及びタイミングを決定	ロットやサイズといった生育データと環境データから、作業時期と内容を決定